

会議名	第3回港区放課GO→クラブあおやま運営事業候補者選考委員会
開催日時	令和3年12月23日（木曜日）午後4時から午後6時まで
開催場所	赤坂地区総合支所会議室
委員	出席者6名 阿部委員長、田中委員、秋山委員、中島副委員長、白井委員、高山委員 欠席者なし
事務局	赤坂地区総合支所管理課
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	・次第 ・資料1 第二次審査実施概要 ・資料2 第二次審査採点基準表 ・資料3 第一次審査・第二次審査集計結果 ・資料4 第2回選考委員会議事録概要 ・参考資料1 第一次審査集計結果 ・参考資料2 事業候補者選考基準 ・参考資料3 仕様書（素案）
会議の内容	
A委員	【1 開会】 （委員長より閉会の挨拶）～詳細省略～ 【2 第二次審査実施概要について】 （事務局より資料1について説明） 【3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】 （A事業者 プレゼンテーション及びヒアリング） 施設長候補者として、職員に対して大事にしていきたいことをお聞かせください。
A事業者	職員とは日誌を通して、その人自身の対応を共有し振り返ることで、自分にはない新しい考えを見つける機会をつくり、職員同士の共通認識を高めていきたいと思っております。

A委員	職員の足りない部分について、研修後のフィードバックは何か考えていますか。
A事業者	研修動画や資料がすぐに手に入る状態にあるので、そちらの資料を活用し一緒に学ぶ機会を作り、共有し、研修内容を実践しています。
A委員	エリアマネージャーはどれくらいの時間いますか。
A事業者	巡回の頻度は2回ですが、事案によっては十分時間をとって対応させていただいております。また、現場のみならず、学校との話し合いの場等にお邪魔させていただきたいと考えております。
B委員	本部として施設長候補者を抜擢した理由を教えてください。
A事業者	施設長候補者のこれまでの経験は全て支援級がある学校のため、支援級がある学校での放課後事業の運営において経験があったことが第一の理由です。
B委員	障害児対応で難しかった事例や解決策等あれば教えてください。
A事業者	昨日できたことが今日できない、といった大人視点でいうジレンマがありました。ただ、そのお子さんにとってその日の状態や、気持ちの寄り添いを大事にしております。
C委員	子供同士のトラブルへの対応はどうお考えですか。
A事業者	帰りの会の時間に、個性や得意不得意について全員に話をしております。障害の有る無しに関わらず、お互い支えあっていこうと声掛けをしています。
B委員	その子に応じた対応が可能ということですか。
A事業者	予定表に時間を書いてはおりますが、熱中してしまうと時計を見て行動することや切り替えが難しいお子さんもいますので、子供達同士で声を掛け合う対応をさせていただいております。
D委員	学習支援用タブレットや食育、スポーツプログラムの実績や利用者の評価を教えてください。

A事業者	タブレットについては遊びながら学ぶ環境を提供するものであり、自治体の考えにより導入をしていない自治体もあります。おやつについては学校給食との連携、スポーツについてはスポーツ指導専門のチームが定期的に訪問し活動をしており、非常に好評です。
E委員	特別な配慮が必要な児童に対する本部サポート体制について具体的に教えてください。
A事業者	特別支援学校の校長先生を務めた顧問の方が、事業所からお子様に対する悩み等の連絡があれば訪問して直接アドバイスをしております。また、子ども家庭支援センターのセンター長が研修講師となり、研修の受講者がもっと聞きたいということであれば、直接施設に訪問しております。
E委員	定期的ではなく、何かあったときに専任の方が行くということですか。
A事業者	定期的にはオンライン研修を行っております。
委員長	施設長候補者がお子さんとの関係で一番大事にしていることは何ですか。
A事業者	学童に来てから帰るまでの間に、全員に声をかけることを大切にしております。
委員長	関係を作り難いお子さんについてはいかがですか。
A事業者	関係を作り難いお子さんこそ、こちらから歩み寄り、学童での生活の場を話のきっかけづくりとして関係を深めていきたいと思っております。
委員長	商品企画部とはどのような部署ですか。
A事業者	現場からの要望に応じてプログラム化し現場に返すというプログラム開発を行っております。先ほどのタブレットや食育についても商品企画部でプログラムにしています。
委員長	食育について、楽しさを感じる工夫はどのように考えていますか。
A事業者	コロナウィルス感染症対策で黙食になっているので、駄菓子の当たりが出て嬉しそうな様子をみる等、見た目楽しさを表現させていただいております。

	(A事業者退席)
A委員	(B事業者 プレゼンテーション及びヒアリング) 育成に対する思いについて、簡単にお話しただけだと思います。
B事業者	学童クラブに来る子供達が安全安心を獲得できる場所、のびのび成長できる場所になるよう努力して、保護者や行政の方々に満足いただけるよう取り組んでまいりました。
A委員	職員との連携で大事にしてきたことはありますか。
B事業者	職員の動きが一致していないと子供や保護者に対して通じるものがないと考えており、子供達同士のけんかに関しても、職員と共有して、どの指導員がどの子供に対しても同じ対応ができるように取り組んでいます。
A委員	学校とは別のアプローチというのはどのようにお考えですか。
B事業者	子供や放課GO→クラブの運営に関しては、校長先生や副校長先生と話し合いを多く持ち、認識を合わせることを考えております。独自の取組をすることに関しても学校と連携をとって、確認をしながら進めていきたいと思っております。
B委員	障害児支援について、1人につき1人の担当者になるというイメージでしょうか。
B事業者	マンツーマンで特別な支援が必要な場合には、そういった対応をこれまでもやってまいりました。
B委員	施設長候補者は、これまで障害児の受け入れの経験はありますか。
B事業者	軽度の障害児に関しては受け入れを行って対応をしており、一般の子と要支援の子が垣根なく生活できる場所の提供が大事だと思いました。
B委員	対応の中で難しかった事例やその対策等ありますか。
B事業者	苦手なことがあって周りの動きが少し遅くなったときでも、どう子供達に伝えるか大変だと思ったところです。ただ、子供達もちゃんと伝えれば分かってもらえることが多かったので、その子がたまたま苦手だっただけという認

	識で分かってもらえると思っています。
C委員	トラブル時の対応についてお聞かせください。
B事業者	その場面を見ていなかった場合は、お互いの話を傾聴し、どうすればお互いに納得して仲直りができるか、言い分が違っていた場合は少し時間をおいて落ち着いてから話し合いをするよう対応をしています。
C委員	保護者と連携しながらですか。
B事業者	何か問題があった場合、保護者の方には大なり小なり連絡帳や電話で連絡をさせていただいています。
C委員	独自のプログラムでアピールできるものをご紹介します。
B事業者	ネイティブの外国籍の方による英語プログラムの実施や、独自に開発をしたプリント学習、また地域ごとのニーズへの対応を行ってきました。
D委員	一点目は施設長候補者の現職の前はこういった業務に関わっていたのか、二点目は地域との繋がりで心掛けていること、三点目は本部のサポート体制についてご説明ください。
B事業者	経歴については、学校卒業後、学童保育に勤務をしていましたが、一般企業に就職したのち、子供に関わる仕事をやりたいという強い思いからこちらに戻って勤務をさせていただいております。地域の方々との繋がりで気を付けていることは、出来るだけ地域の方々とお互いに認識してもらう機会をどんどん増やして交流を持つよう気を付けています。東京本部はチームとして運営をしており、スーパーバイザーが窓口となり対応します。
E委員	施設長候補者として職員の育成についてお聞かせください。
B事業者	見守りが一番の命題であると思っておりますので、子供の変化を感じ取れる目を育て、報告・共有して子供の育成に役立てることを一番重視しております。
E委員	子供の変化を見る目というのは、どのように指導していくのか。
B事業者	日々のミーティングで、それぞれ子供の様子を話すことによって変化が感じ

	<p>取れるかなと思いますので、ミーティングの回数を増やして強化をしていきたいと思います。</p>
E委員	<p>人員の確保はどんなふうに確実にやりますか。</p>
B事業者	<p>専門の人材ビジネスの事業部がございますので、その部署と連携をして採用をしていきます。</p>
委員長	<p>目視確認とありますが、目視で確認した事柄を集めて判断をするのはどなたですか。</p>
B事業者	<p>施設長や、職員とミーティングによる総合的な話し合いでの判断もあるかと思えます。</p>
委員長	<p>おやつ提供のプログラムは会社として進めているのですか。</p>
B事業者	<p>月1回イベントとしてご当地の名産物を食べるというのをやっております。</p>
委員長	<p>子供達の反応はどうですか。</p>
B事業者	<p>保護者の方の地元だったりして非常に盛り上がっています。</p> <p>(B事業者退席)</p> <p>(採点・休憩)</p>
委員長	<p>【4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について】</p> <p>それでは審査に当たりまして評価したポイント等各委員から講評をお願いしたいと思います。</p>
A委員	<p>どちらもお任せしていい事業者かなと思っております。施設長候補者について、A事業者は経験による自分の言葉で答えていて、立ち止まったりすることなく内容もしっかりされている印象です。B事業者の方も長い経験の中で培ったもの含めて語られていた印象です。A事業者は、本部の方が支援体制について根拠を持って語られていたところが全体として好印象で、おやつやタブレット等、いろいろな部分で充実した活動によって子供達が楽しめるのかなという印象です。B事業者は、提案書からみると本部の支援体制がそんなに強くないのかなという部分で差を付けました。</p>

B委員	<p>A事業者は、障害児対応についてアピールをされていて、施設長候補者の経歴でも障害児対応の経験を重視して抜擢したり、青山小学校の特性を理解されていると感じました。本部のバックアップも安定していることが分かったので、施設長候補者のフォローも期待できると感じました。B事業者は、本部のバックアップの強さよりも、施設長候補者の経験や能力にゆだねる印象がありました。施設長候補者はA事業者よりも経験を基にした回答ができていて、青山の特性もよく理解して回答していると感じました。活動プログラムに対して他の事業者にはない提案があり期待できる事業者と感じました。</p>
C委員	<p>施設長候補者について、A事業者は若いなりに自分の言葉で答えていたところが良かったですが、B事業者は経験はあるが本部的な答え方が気になりました。A事業者は施設長候補者の若いなりに心配なところは、本部のバックアップがどんどん出てきてくれそうな気配があり、B事業者はノウハウがあるので計画の実現力で得点の差をつけました。</p>
D委員	<p>A事業者は、戦略的に練られて施設長候補者を選んできたことが分かりましたので、事業者の姿勢を評価しました。B事業者は本部の支援体制を評価しました。B事業者は、マニュアルが非常に充実している事業者だと分かりました。</p>
E委員	<p>どちらも任せられる事業者であると思います。施設長候補者について、A事業者は若いなりに経験を活かして、自分なりに考えて行動して期待できそうだなと思いました。事業者としては、やり取りの中で工夫して取り組む姿勢や考え方が垣間見られました。B事業者の施設長候補者は、長年の経験もありますが、もう少し自分なりの考え方を打ち出せてもらえないのかなと思います、A事業者に加点をしました。</p>
委員長	<p>B事業者は方々にいろいろな工夫があって、子供達が喜んで興味を持つ工夫が見られたので評価をしました。A事業者は、会社の支援体制の安定性はありますが、会社への依存度が強すぎないかなど。若い施設長候補者は魅力的でしたが、職員や地域と向き合っていかなければならない点が頼りなかったです。その点、B事業者の施設長候補者は経験があり、地域の方ともこなせるであろうと安心感を持ちました。</p>
委員長	<p>各委員からの講評を踏まえ、ご自身の採点について修正はございますか。</p> <p>(修正なし)</p>

事務局	<p>それでは集計結果について報告させていただきます。</p> <p>第二次審査の得点はA事業者 914 点、B事業者 927 点です。第一次審査・加点項目・第二次審査の総合点は、A事業者 1,410 点、B事業者 1,403 点です。</p>
委員長	<p>それでは、事務局からの集計結果をもちまして、本委員会ではA事業者を事業候補者として選定することとしますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p> <p>【5 その他】 (事務局より資料4について説明)</p> <p>【6 閉会】 (委員長より閉会の挨拶) ~詳細省略~</p>